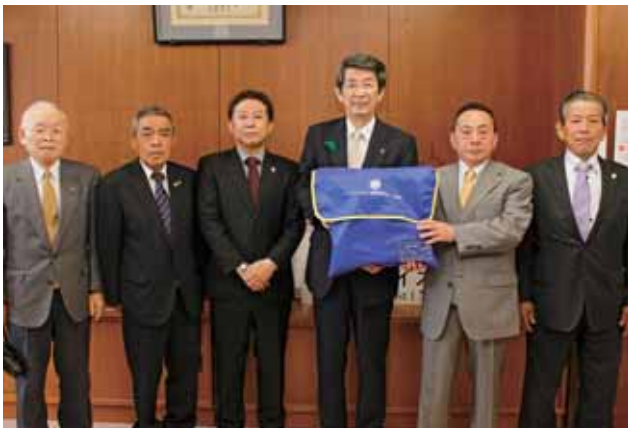


子どもたちへ温かい支援 ライフジャケットを寄贈

5月19日、陸中山田ライオンズクラブ(上澤富士夫会長)が、子ども用のライフジャケットを寄贈しました。これは、姉妹クラブである青森県の平賀ライオンズクラブから、震災復興支援の一環で贈られたもので、子どもたちのマリンスポーツや防災学習に活用してほしいと寄贈。式には、同クラブの役員ら5人が参加し、上澤会長から「子どもたちが海の魅力に触れる体験に活用してほしい」と、佐藤信逸町長に手渡されると、佐藤町長は「各種体験や防災学習に役立てたい」と感謝を伝えました。



交通死亡事故ゼロ4年達成 県警から賞賛状贈られる

町では、5月25日で交通死亡事故ゼロ4年を達成。26日には岩手県警(島村英本部長)から町へ賞賛状が贈られました。伝達式は町長室で行われ、宮古警察署の金崎将樹署長が「官民一体となった交通事故防止活動に対し敬意を表します」と、賞賛状を伝達。佐藤信逸町長は「これからも交通指導隊など、皆さんからお力を借り、一日一日活動を積み重ねて行きます」と、受け取りました。また、「本町では、残念ながら飲酒運転が多い状況。そちらも、一丸となり啓発活動に取り組みたい」と話しました。

美しい山田町を目指して

子どもたちも一緒に清掃活動 轟木・田子の木クリーン作戦

6月7日、わらびの会(臼澤文男会長)が、轟木地区、田子の木地区で「クリーン作戦」を実施しました。この活動は、教育振興運動の一環で行われたもので、子どもたちが健やかに育つ環境づくりのために開催。当日は、日が昇ると各地区でそれぞれに草刈りが始まりました。午前6時頃になると子どもたちが参加し、各家庭から旧轟木小学校を目指してごみ拾い。清掃活動が終わると子どもたちは校庭脇の畑に集まり、サツマイモの苗を植えました。秋には、芋を掘り焼き芋大会を行います。



住民ら約40人が参加 関口川清掃活動を実施

6月7日、心の絆の会(阿部吉衛会長)による関口川の清掃活動が行われました。活動は一昨年から始まり、今年で3回目です。同会の呼びかけで、航空自衛隊山田分屯基地の自衛官や大杉神社神輿会、陸中山田ライオンズクラブなど約40人が参加。参加者は草刈りを含めた清掃活動に汗を流し、集めたごみには、ポイ捨てによるごみのほか、不法投棄された漁具やタイヤなどが見られました。「ごみはごみ箱へ」。当たり前のことですが、一人一人の心掛けで、美しい町を目指していきましょう。



町のわだい

今月の題字 船越 文子さん（船越小4年）



山田中でオリンピック開催 仲間と共に全力を尽くす

5月22日、山田中学校(佐々木秀毅校長、生徒316人)で、オリンピック(体育祭)が開催されました。今年は、新型コロナウイルス感染症により開催が危ぶまれましたが、ソーシャルディスタンスを守り開催。応援団による山中太鼓が始まりを告げると、4つの組団に分かれた生徒たちは、長縄跳びや綱引きなどで競い合いました。また、組団ごとの応援合戦では、工夫の凝らした応援に会場は大盛況。そして、大一番のリレーでは、追い越し、追い越されの白熱したレースとなりました。生徒たちは、仲間と一つ一つの競技に全力を尽くしていました。

豊間根小の児童が田植え 泥だらけの駆けっこ

5月28日、豊間根小学校(門田徹校長、児童141人)の5年生23人が、田植え体験を行いました。これは、地域で行われている稲作を学んでもらおうと、木村良一さん(豊間根・72)の協力で毎年行われているものです。児童らは木村さんの指導を受けながら、素足で苗を一株一株植え付けました。泥でめかるお足場に苦戦しながらも、5分ほど植え終わると、木村さんの合図で一斉に駆けっこがスタート。田んぼで走り回った児童らは、泥だらけになりながら貴重な体験を楽しんでいました。同校では、今後も手入れを続け、秋には稲刈りと脱穀を行います。

